

LESSON NOTES

Extra Fun #33

O-bon Kaidan: Stairway In The Middle Of The Night

CONTENTS

- 2 Kanji
- 6 Kana
- 11 English
- 15 Vocabulary
- 16 Sample Sentences

33

KANJI

1. 数年前、職場で体験した出来事です。
2. そのころ、ぼくの職場はトラブルつづきで、大変に荒れた雰囲気でした。
3. 普通では考えられない発注ミスや、工場での人身事故があいつぎ、クレーム処理に追われていました。
4. 朝、出社して、夜中に退社するまで、電話に向かって頭を下げつづける日々です。
5. 当然、僕だけでなく、他の同僚のストレスも溜まっていました。
6. その日も、事務所のカギを閉めて、廊下に出たときには午前三時を回っていました。
7. 大島所長と中島係長、二人の同僚とぼくをあわせて五人です。
8. みな疲労で青ざめた顔をして、黙りこくっていました。
9. ところが、その日はさらに気を滅入らせるような出来事が待っていました。
10. 廊下のエレベーターのボタンをいくら押しても、エレベーターが上がってこないのです。
11. その夜だけエレベーターのメンテナンスのために、電気が止められたらしく、ビル管理会社の手違いで、その通知がうちの事務所にだけ来ていなかったのです。
12. これには、ぼくも含めて、全員がキレました。
13. 「おい開けろー！！おい、どうなってんだー！」「なんだよくっそー！」「もう冗談じゃないわよー。ほんと、いい加減にしてよねえ。。」
14. 同僚の山崎など、床に座りこむ始末でした。

CONT'D OVER

15. 大島所長「しょうがない、非常階段から下りよう」
16. 防災の目的でつくられた非常階段があるのですが、侵入者を防ぐため、内側から嚴重にカギがかけられ、滅多なことでは開けられることはありません。僕もそのとき、はじめて階段につづく扉を開けることになったのです。
17. 廊下のつきあたり、蛍光灯の明かりも届かないところにその扉がありました。
18. どんなにビルが密集して立っているような場所でも、表路地からは見えない、「死角」のような空間があります。ビルの壁と壁にはさまれた谷間のようなその場所は、昼間でも薄暗く、街灯の明かりも届かず、鳩とカラスの巣になっていました。
19. うちの事務所は、ビルの7Fにあります。
20. 中林「うっ。。」重い扉が開いたとたん、なんともいえない異臭が鼻をつきます。イヤな匂いが立ち上っているのです。
21. 加藤「鳩の糞だよ、これ……」
22. ビルの裏側は、鳩の糞で覆い尽くされていました。
23. 暗闇への恐怖も忘れて、ぼくはスチールの階段を降り始めました。
24. 足元は暗くて、手すりか腰のあたりまでの高さしかなく、ものすごく危ない。振り返って同僚たちをみると、みんな暗い顔をしていました。
25. ぼくが先頭になって階段をおりました。すぐ後ろに加藤、山崎、大島所長、中島係長の順番です。
26. 六階の踊り場を過ぎたあたりでした。

CONT'D OVER

27. 後ろの誰かが会話しているのかと思ったのですが、どうも様子がへんなのです。誰も返事をかえす様子がないのです。
28. この声をぼくは知っている。係長や所長や山崎の声ではない。でも、それが誰の声か思い出せないのです。でも……それは決して、夜の三時に暗い非常階段で会って楽しい人物ではないことは確かです。
29. ぼくの心臓の鼓動はだんだん早くなっていきました。
30. いちどだけ、足を止めて、うしろを振り返りました。
31. すぐ後ろにいる加藤が、きょとんとした顔をしています。
32. そのすぐ後ろに山崎。所長と係長の姿は、暗くて見えません。
33. 中林「所長……」
34. 中島係長「何？……さっきから、誰と話してるんだ？」
35. 所長は状況をわかっていない。答えてはいけない。振り返ってもいけない。強く、そう思ったのです。
36. 加藤がいらだって手すりをカンカンと叩くのが、やけにはっきりと聞こえました。ですが、ぼくと同じような恐怖を感じている雰囲気はありませんでした。
37. 僕はいちばん聞きたくない物音を耳にすることになったのです。
38. 大島所長「なあ、山崎君！中島さんも、中林くんも、ちょっと……」
39. 中林くんというのはぼくのことです。
40. 中林「振り返っちゃいけない！！振り返っちゃいけない……」

CONT'D OVER

41. 背後で、加藤と山崎が何か相談しあっている気配があります。
42. ぼくは階段をおりることに意識を集中しました。
43. ぼくの身体は隠しようがないほど震えていました。
44. 三階を通り過ぎ、眼下に、真っ暗な闇の底……地面の気配がありました。
45. 背後から近づいてくる気配に気づいたのはそのときでした。
46. 中林「う、、、はあ、はあ、うぐっ。。。」
47. ぼくは、悲鳴をあげるのをこらえながら、あわてて階段をおりました。
48. 階段のつきあたりには、鉄柵で囲われたゴミの持ち出し口があり、そこには簡単な鍵がかかっています。
49. 気配は、すぐ真後ろにありました。振り返るのを必死でこらえながら、ぼくは暗闇の中、わずかな指先の気配を頼りに、鍵をあけようと思いました。
50. そのときです。
51. すうう……。
52. 「なあ、中林、こっちむけよ！ いいもんあるから」「楽しいわよ、ね、中林くん、これがね……」「中林くん、中林くん、中林くん中林くん……」「ふふふ……ねえ、これ、これ、ほら」「なあ、悪いこといわんから、こっち向いてみいや。楽しいでー！」
53. 悲鳴をこらえるのがやっとでした。
54. ただ言葉だけで……圧倒的に明るい、楽しそうな声だけで、必死でぼくを振り向かせようとするのです。

CONT'D OVER

55. 中林「うわあああああー！！！」
56. 僕は、知らないうちに鍵をあけていたのです。
57. うれしいよりも先に、鳥肌のたつような気分でした。やっと出られる。
58. 闇の中に手を伸ばし、鉄格子を押します。
59. ここをくぐれば、ほんの数メートル歩くだけで、表の道に出られる……。
60. 一歩、足を踏み出した、そのとき。
61. 「お い」

KANA

1. すうねんまえ、しょくばでたいけんしたできごとです。
2. そのころ、ぼくのしょくばはトラブルつづきで、たいへんにあれたふんいきでした。
3. ふつうではかんがえられないはっちゅうミスや、こうじょうでのじんしんじこがあいつぎ、クレームしよりにおわれていました。
4. あさ、しゅっしゃして、よなかにたいしゃするまで、でんわにむかってあたまをさげつづけるひびです。
5. とうぜん、ぼくだけでなく、ほかのどうりょうのストレスもたまっていました。
6. そのひも、じむしょのカギをしめて、ろうかにでたときにはごぜんさんじをまわっていました。

CONT'D OVER

7. おおしましよちょうとなかしまかかりちょう、ふたりのどうりょうとぼくをあわせてごにんです。
8. みなひろうであおざめたかおをして、だまりこくっていました。
9. ところが、そのひはさらにきをめいらせるようなできごとがまっていました。
10. ろうかのエレベーターのボタンをいくらおしても、エレベーターがあがってこないのです。
11. そのよるだけエレベーターのメンテナンスのために、でんきがとめられたらしく、ビルかんりかいしゃのてちがいで、そのつうちがうちのじむしょにだけきていなかったのでした。
12. これには、ぼくもふくめて、ぜんいんがキレました。
13. 「おいあけろー！！おい、どうなってんだー！」「なんだよくっそー！」「もうじょうだんじゃないわよー。ほんと、いいかげんにしてよねえ。。」
14. どうりょうのやまざきなど、ゆかにすわりこむしまつでした。
15. おおしましよちょう「しょうがない、ひじょうかいだんからおりよう」
16. ぼうさいのもくてきでつくられたひじょうかいだんがあるのですが、しんにゆうしゃをふせぐため、うちがわからげんじゅうにカギがかけられ、めったなことではあけられることはありません。
17. ぼくもそのとき、はじめてかいだんにつづくとびらをあけることになったのです。
18. ろうかのつきあたり、けいこうとうのあかりもとどかないところにそのとびらがありました。

CONT'D OVER

19. どんなにビルがみっしゅうしてたっているようなばしょでも、おもてろじからはみえない、「しかく」のようなくかんがあります。
20. ビルのかべとかべにはさまれたたにまのようなそのばしょは、ひるまでもうすぐらく、がいつものあかりもとどかず、はととカラスのすになっていました。
21. うちのじむしょは、ビルの7Fにあります。
22. なかばやし「うっ。。」
23. おもいとびらがひらいたとたん、なんともいえないいいしゅうがはなをつきます。
24. イヤなにおいがたちあがっているのです。
25. かとう「はとのふんだよ、これ……」
26. ビルのうらがわは、はとのふんでおおいつくされていました。
27. くらやみへのきょうふもわすれて、ぼくはスチールのかいだんをおりはじめました。
28. あしもとはくらくて、てすりがこしのあたりまでのたかさしかなく、ものすごくあぶない。
29. ふりかえってどうりょうたちをみると、みんなくらいかおをしていました。
30. ぼくがせんとうになってかいだんをおりました。
31. すぐうしろにかとう、やまざき、おおしましょちょう、なかしまかかりちょうのじゅんばんです。
32. ろっかいのおどりばをすぎたあたりでした。

CONT'D OVER

33. うしろのだれかがかいわしているのかとおもったのですが、どうもようすがへんなのです。
34. だれもへんじをかえすようすがないのです。
35. このこえをぼくはしっている。かかりちょうやしょちょうややまざきのこえではない。
36. でも、それがだれのこえかおもいだせないのです。
37. でも.....それはけっして、よるのさんじにくらいひじょうかいだんであったのしいじんぶつではないことはたしかです。
38. ぼくのしんぞうのこどうはだんだんはやくなっていきました。
39. いちどだけ、あしをとめて、うしろをふりかえりました。
40. すぐうしろにいるかとうが、きょんとしたかおをしています。
41. そのすぐうしろにやまざき。
42. しょちょうとかかりちょうのすがたは、くらくてみえません。
43. なかばやし「しょちょう.....」
44. なかしまかかりちょう「なに?.....さっきから、だれとはなしてるんだ?」
45. しょちょうはじょうきょうをわかっていない。こたえてはいけない。ふりかえってもいけない。つよく、そうおもったのです。
46. かとうがいらだっててすりをカンカンとたたくのが、やけにはっきりときこえました。
47. ですが、ぼくとおなじようなきょうふをかんじているふんいきはありませんでした。

CONT'D OVER

48. ぼくはいちばんききたくないものおとをみみにすることになったのです。
49. おおしましょちょう「なあ、やまざきくん！なかじまさんも、なかばやしくんも、ちょっと……」
50. なかばやしくんというのはぼくのことです。
51. なかばやし「ふりかえっちゃいけない！！ふりかえっちゃいけない……」
52. はいごで、かとうとやまざきがなにかそうだんしあっているけはいがあります。
53. ぼくはかいだんをおりることにいしきをしゅうちゅうしました。
54. ぼくのからだはかくしようがないほどふるえていました。
55. さんかいをとおりすぎ、がんかに、まっくらなやみのそこ……じめんのけはいがありました。
56. はいごからちかづいてくるけはいに気づいたのはそのときでした。
57. なかばやし「う、、、はあ、はあ、うぐつ。。。」
58. ぼくは、ひめいをあげるのをこらえながら、あわててかいだんをおりました。
59. かいだんのつきあたりには、てっさくでかこわれたゴミのもちだしぐちがあり、そこにはかんたんなかぎがかかっています。
60. けはいは、すぐまうしろにありました。
61. ふりかえるのをひっしでこらえながら、ぼくはくらやみのなか、わずかなゆびさきのけはいをたよりに、かぎをあけようと思いました。

CONT'D OVER

62. そのときです。
63. すうう……。
64. 「なあ、なかばやし、こっちむけよ！ いいもんあるから」
65. 「たのしいわよ、ね、なかばやしくん、これがね……」
66. 「なかばやしくん、なかばやしくん、なかばやしくんなかばやしくん……」
67. 「ふふふ……ねえ、これ、これ、ほら」
68. 「なあ、わるいこといわんから、こっちむいてみいや。たのしいでー！」
69. ひめいをこらえるのがやっとでした。
70. ただことばだけで……あっとうてきにあかるい、たのしそうなこえだけで、ひっしでぼくをふりむかせようとするのです。
71. なかばやし「うわあああああああ——！！！」
72. ぼくは、しらないうちにかぎをあけていたのです。
73. うれしいよりもさきに、とりはだのたつようなきぶんでした。やっとでられる。
74. やみのなかにてをのばし、てつごうしをおします。
75. ここをくぐれば、ほんのすうメートルあるだけで、おもてのみちにでられる……。
76. いっぽ、あしをふみだした、そのとき。
77. 「お い」

ENGLISH

CONT'D OVER

1. It happened at my workplace several years ago.
2. At the time, problems plagued the company; unthinkable mistakes with orders, frequent accidents at the factory, and an overwhelming number of complaints.
3. Those days were mostly spent apologizing on the phone from the time we arrived in the morning until we finished late at night. Of course, not only I, but my coworkers were all overcome with stress.
4. On that day, just like most others during that period, it was nearing three in the morning when we locked the office door.
5. THERE WERE Chief Oshima, Chief Nakajima, two co-workers, and me. Everyone
FIVE OF US: was silent, their faces pale with exhaustion.
6. The elevator wouldn't come no matter how many times we pushed the button.
7. We didn't know this at the time, but a clerical error by the building management had resulted in our office not being notified that the elevator would be receiving maintenance that particular night, requiring the power to be shut off. My coworkers and I snapped.
8. "Hey, open up!! What's going on?!" "What's the deal!? Come on!!" "Quit playing around, enough of this, okay...?!"
9. It ended with some of my coworkers, including Yamazaki, sitting in defeat on the hallway floor.
10. "We have no choice. Let's take the emergency stairway,"
11. A stairwell was installed in the building as a means of escape during a fire, and in order to prevent intruders it was kept locked from the inside. The lock was rarely opened.
12. It was the first time I had opened the door connecting to the emergency stairway.

CONT'D OVER

13. The door was at the end of the hall in a spot where the fluorescent lighting barely reached.
14. No matter how closely spaced a building is to another, every building has a space similar to a "blind spot" that can't be seen from the main road.
15. Those nooks, usually between the walls of two buildings, barely see sunlight even during the day, and are beyond the reach of artificial lighting. Those spots serve as nesting grounds for pigeons and crows. Our office is on the seventh floor.
16. As soon as the door opened, an indescribably foul stench flooded the hall and hung low.
17. "It's pigeon poop,"
18. The back of the building was covered in bird excrement. Forgetting my fear of the dark, I started to descend the steel stairway.
19. It was too dark to see where I was walking, and the handrail was only the height of my waist. I turned around to look at my coworkers; they all had gloom written on their faces.
20. I was in the front of the group. Behind me were Kato, Yamazaki, Chief Oshima, and Chief Nakajima, in that order.
21. It was when we passed the landing on the sixth floor that I suddenly heard a whispering voice coming from behind me. I thought someone was having a conversation, but the strange thing was that it didn't seem like anyone was responding.
22. I knew that voice. It wasn't either of the Chiefs, nor of Yamazaki. I couldn't remember whose voice it was.
23. One thing was certain, however; the owner of that voice was someone you would not enjoy meeting at three in the morning on the emergency stairway. My heart started pounding faster.

CONT'D OVER

24. I looked back only once. Behind me Kato was a blank look on his face, and behind her, Yamazaki. It was too dark to see Chiefs Oshima and Chief Nakajima.
25. "Chief Oshima?" said Masaru.
26. "What? Who have you been talking to this whole time?" replied Chief Nakajima.
27. Chief Oshima doesn't understand the seriousness of the situation. I shouldn't reply. I shouldn't even turn around. I strongly felt this was the right thing to do.
28. I clearly heard Kato, who was restless with anxiety, clanging something against the handrail. However, it didn't seem to me as if he was feeling the same paralyzing fear that I was.
29. Everything that reached my ears was exactly what I didn't want to hear at that moment.
30. "Hey, Yamazaki! You too, Chief Nakajima, and you too, Nakabayashi. Wait..."
31. I am Nakabayashi. But I shouldn't turn around. I shouldn't turn around!
32. Behind me, I could hear Kato and Yamazaki discussing something. I concentrated on descending the stairway. I was visibly shaking to the point that I could not hide it.
33. We passed the third floor, and below I could barely see the ground covered in complete darkness.
34. I quickened my pace. And that's when I felt something rush up very close behind me.
35. I stifled a scream as best I could, and continued to descend the stairway.
36. The bottom of the stairs was an area surrounded by a steel cage that had a simple lock on it to allow for the garbage disposal. Something was still right behind me.

CONT'D OVER

37. And in the pitch black of the landing, I relied on the sense of my fingers to open the lock, while doing my best not to turn around.
38. Then, it happened.
39. "Oy, Nakabayashi! I have something for you."
40. "This is fun, Nakabayashi, isn't it?!"
41. "Nakabayashi, Nakabayashi, Nakabayashi..."(need recording)
42. "C'mon, I won't do anything...turn around!!"
43. "Mwahaha, heeeey, c'mon, come on!"
44. I could no longer contain my scream. They tried to get me to turn around using sickeningly bright voices.
45. Before I knew it, I had opened the door. I didn't feel relief, but rather the crawling feeling of gooseflesh covering my skin. I can finally get out! I stuck my hand out in the darkness and pushed on the steel gate. Once I pass through, I'll only be a few meters from the main road.
46. I took one step forward.
47. And then....
48. "Hey"

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
職場	しょくば	shokuba	workplace

鉄柵	てっさく	tessaku	iron fence
悲鳴	ひめい	himei	shriek, scream
気配	けはい	kehai	indication, presence
暗闇	くらやみ	kurayami	darkness
異臭	いしゅう	ishū	offensive smell
死角	しかく	shikaku	blind spot
蛍光灯	けいこうとう	keikōtō	fluorescent light
非常階段	ひじょうかいだん	hijō kaidan	emergency stairs
人身事故	じんしんじこ	jinshin jiko	accident causing injury or death
管理会社	かんりがいしゃ	kanri gaisha	management company
通知	つうち	tsūchi	notification
処理する	しよりする	shori suru	to deal with
発注	はっちゅう	hacchū	ordering
鉄格子	てつごうし	tetsugōshi	iron grille

SAMPLE SENTENCES

<p>職場の雰囲気が悪い。 <i>Shokuba no fun'iki ga warui.</i></p> <p>The atmosphere at the workplace isn't good.</p>	<p>鉄柵に囲まれたところに入った。 <i>Tessaku ni kakomareta tokoro ni haitta.</i></p> <p>I entered the place surrounded by an iron fence.</p>
<p>深夜、女の人悲鳴が聞こえた。 <i>Shinya, onna no hito no himei ga kikoeta.</i></p> <p>In the middle of the night, I heard a woman scream.</p>	<p>暗い中、後ろに気配がした。 <i>Kurai naka, ushiro ni kehai ga shita.</i></p> <p>In the dark I felt a presence behind me.</p>

<p>突然、暗闇から猫が飛び出してきた。 <i>Totsuzen, kurayami kara neko ga tobi dashite kita.</i></p> <p>A cat suddenly jumped out of the darkness.</p>	<p>この部屋は異臭がする。 <i>Kono heya wa ishū ga suru.</i></p> <p>This room smells bad.</p>
<p>子どもが死角に隠れていた。 <i>Kodomo ga shikaku ni kakurete ita.</i></p> <p>A child was hiding in the blind spot.</p>	<p>新しい蛍光灯にとりかえたばかりだ。 <i>Atarashii keikōtō ni torikaeta bakari da.</i></p> <p>I replaced the light with a new fluorescent light.</p>
<p>非常階段を下りた。 <i>Hijōkaidan o orita.</i></p> <p>I went down the emergency stairs.</p>	<p>人身事故の影響で、電車が遅れている。 <i>Jinshin jiko no eikyō de, densha ga okurete iru.</i></p> <p>The trains are late due to an accident resulting in physical injury.</p>
<p>彼はビル管理会社に就職した。 <i>Kare wa biru kanri gaisha ni shūshoku shita.</i></p> <p>He got a job at a building management company.</p>	<p>学生は内定通知をもらった。 <i>Gakusei wa naitei tsūchi o moratta.</i></p> <p>The student recieved an offer letter.</p>
<p>私には、処理しなければならない問題がたくさんある。 <i>Watashi ni wa, shori shinakereba naranai mondai ga takusan aru.</i></p> <p>I have many issues to deal with.</p>	<p>新しいCDを発注した。 <i>Atarashii CD o hacchū shita.</i></p> <p>I ordered a new CD.</p>
<p>安全のため、鉄格子を窓に付けました。 <i>Anzen no tame, tetsugōshi o mado ni tsukemashita.</i></p> <p>I put bars on the window for security.</p>	